

令和 8 年度登録販売者試験問題

山 梨 県

(令和 8 年 8 月 2 6 日Ⅱの部)

分 野		出題数	試験時間
1	主な医薬品とその作用 (40 問)	6 0 問	1 2 0 分
2	医薬品の適正使用と安全対策 (20 問)		

◎ 指示があるまで開いてはいけません。

◎ 注意事項

- 1 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」について、問題文中では「医薬品医療機器等法」と表記します。
- 2 この試験問題は問 6 1 から問 1 2 0 までの 6 0 問です。解答は、解答用紙の「良い例」にならって、解答欄の解答番号を 1 ヶ所ぬりつぶしてください。指示された方法以外での記入や、1 つの問題に複数解答した場合には、その問題の解答は無効になります。
- 3 解答用紙は折り曲げたり、汚したりしないでください。また、誤って記入した場合は、消しあとが残らないようにプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消しくずをよく払っておいてください。
- 4 不正行為を行った者や他の受験者の迷惑となる行為を行った者については、試験を無効とし、または合格を取り消すことがあります。
- 5 退室する際には、解答用紙を裏返して机の上に置き、試験官の指示に従ってください。
- 6 この問題用紙は持ち帰ることができます。

主な医薬品とその作用（40問）

【問 6 1】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度又はやや虚弱で、うすい水様の痰を伴う咳や鼻水が出るものの気管支炎、気管支喘息、鼻炎、アレルギー性鼻炎、むくみ、感冒、花粉症に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

まれに重篤な副作用として、肝機能障害、間質性肺炎、偽アルドステロン症を生じることが知られている。

- 1 麻黄湯まおうとう
- 2 小青竜湯しょうせいりゅうとう
- 3 芍薬甘草湯しゃくやくかんそうとう
- 4 桂枝加朮附湯けいし かじゆつ ぶとう

【問 6 2】 かぜ薬（総合感冒薬）に含まれている成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ベラドンナ総アルカロイドは、コリン作動成分であり、鼻汁分泌やくしゃみを抑える目的で配合されている場合がある。
- b トラネキサム酸は、体内での起炎物質の産生を抑制することで炎症の発生を抑え、鼻粘膜や喉の炎症による腫れを和らげることを目的として、配合されている場合がある。
- c エチルシステイン塩酸塩は、化学構造がステロイド性抗炎症成分に類似していることから、抗炎症作用を示す。
- d アスピリンは、他の解熱鎮痛成分に比較して胃腸障害を起こしやすい。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

【問 6 3】 痛みや発熱が起こる仕組み及び解熱鎮痛薬の働きに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a プロスタグランジンは、ホルモンに似た働きをする物質で、病気や外傷があるときに活発に産生されるようになり、体の各部位で発生した痛みが脳へ伝わる際に、そのシグナルを増幅することで痛みの感覚を強めている。
- b プロスタグランジンは、脳の下部にある体温を調節する部位（温熱中枢）に作用して、体温を通常よりも高く維持するように調節する。
- c 解熱鎮痛薬とは、発熱や痛みの原因となっている病気や外傷を根本的に治す医薬品（内服薬）の総称である。
- d 月経痛（生理痛）は、月経そのものが起こる過程にプロスタグランジンが関わっていることから、解熱鎮痛薬の効能・効果に含まれている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	誤

【問 6 4】 解熱鎮痛薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アセトアミノフェンが配合された製品には、内服薬のほか、専ら小児の解熱に用いる坐薬もある。
- b イブプロフェンは、全身性エリテマトーデス又は混合性結合組織病のある人において、無菌性髄膜炎を生じやすい。
- c イソプロピルアンチピリンは、解熱及び鎮痛の作用は比較的強いが、抗炎症作用は弱いため、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合される。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	正	誤
3	正	正	正
4	誤	誤	正

【問 6 5】 次の表は、ある催眠鎮静薬に含まれている成分の一覧である。

3錠中	
ブロモバレリル尿素	250 mg
アリルイソプロピルアセチル尿素	150 mg
ジフェンヒドラミン塩酸塩	25 mg

この催眠鎮静薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ブロモバレリル尿素は、反復して摂取すると依存を生じることが知られている。
- b アルコールとともに服用すると、アリルイソプロピルアセチル尿素の薬効が減弱されるおそれがある。
- c ジフェンヒドラミン塩酸塩は、吸収されたジフェンヒドラミンの一部が乳汁に移行して乳児に昏睡を生じるおそれがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	誤	誤
3	正	誤	正
4	正	正	誤

【問 6 6】 眠気を促す薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a さんそうにんとう酸棗仁湯は、胃腸が弱い人、下痢又は下痢傾向のある人には、不向きとされる。
- b 15歳未満の小児では、抗ヒスタミン成分により眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などの副作用が起きやすいため、抗ヒスタミン成分を含有する睡眠改善薬の使用は避ける。
- c 生薬成分のみからなる鎮静薬であれば、長期連用することは差し支えない。
- d 基本的に、不眠に対して一般用医薬品で対処することが可能なのは、特段の基礎疾患がない人における、ストレス、疲労、時差ぼけ等の睡眠リズムの乱れが原因の一時的な不眠や寝つきが悪い場合である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	正
5	正	誤	正	正

【問 6 7】 カフェインに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a カフェインは、心筋を興奮させる作用があり、副作用として動悸^きが現れることがある。
- b 一般用医薬品の眠気防止薬において、カフェインの1回摂取量の上限は、カフェインとして 500 mg とされている。
- c カフェインは、腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収促進作用があり、尿量の増加（利尿）をもたらす。
- d カフェインは、解熱鎮痛成分の鎮痛作用を増強する効果を期待して、解熱鎮痛薬に配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	正	正
3	誤	正	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	誤	正

【問 6 8】 鎮暈^{うん}薬（乗物酔い防止薬）とその成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ジフェニドール塩酸塩の副作用として、頭痛、排尿困難、眠気、散瞳による異常な眩^{まぶ}しさ、口渇のほか、浮動感や不安定感が現れることがある。
- b 吐きけの防止に働くことを期待して、ピリドキシン塩酸塩、ニコチン酸アミド等のビタミン成分が補助的に配合されている場合がある。
- c アミノ安息香酸エチルは、延髄にある嘔吐^{おう}中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用がある。
- d メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが早く持続時間が短い。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

【問 6 9】 小児の^{かん}疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）とその配合生薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a リュウノウは、中枢神経系の抑制により緊張や興奮を鎮める作用を期待して用いられる。
- b ジンコウは、鎮静、健胃、強壮などの作用を期待して用いられる。
- c 小児鎮静薬を保護者側の安眠を図ることを優先して、小児に使用することは適当ではない。
- d 小児の^{かん}疳を適応症とする漢方処方製剤として、桂枝加^{けい し}竜骨牡蛎^{かりゅうこつぼれいとう}湯がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	正	正

【問 7 0】 コレステロール及び高コレステロール改善薬に含まれている成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a リノール酸は、末梢血管における血行を促進する作用があるとされ、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、^{しび}痺れ）の緩和等を目的として用いられる。
- b リボフラビンの摂取によって尿が黄色になることがあるが、使用の中止を要する副作用等の異常ではない。
- c コレステロールは細胞の構成成分で、胆汁酸や副腎皮質ホルモン等の生理活性物質の産生に重要な物質である。
- d 低密度リポタンパク質（LDL）は、末梢組織のコレステロールを取り込んで肝臓へと運ぶリポタンパク質である。

1（a、b） 2（a、c） 3（a、d） 4（b、c） 5（c、d）

【問 7 1】 鎮咳去痰薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 咳を抑えることを目的とする成分のうち、延髄の咳嗽中枢に作用するものとして、デキストロメトर्फアン臭化水素酸塩水和物がある。
- b メトキシフェナミン塩酸塩は、交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- c トリメトキノール塩酸塩水和物は、自律神経系を介さずに気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させる。
- d ノスカピンは、麻薬性鎮咳成分である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	正	誤

【問 7 2】 鎮咳去痰薬として用いられる漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 麦門冬湯は、水様痰の多い人に適すとされる。
- b 半夏厚朴湯は、不安神経症、神経性胃炎、つわり、咳、しわがれ声、のどのつかえ感のある人には、不向きとされる。
- c 五虎湯は、胃腸の弱い人や発汗傾向の著しい人には、不向きとされる。
- d 柴朴湯の副作用として、頻尿、排尿痛等の膀胱炎様症状が現れることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	正	誤
4	正	誤	誤	正

【問 7 3】 口腔^{くう}咽喉^{くう}薬及びうがい薬（含嗽^{そう}薬）に含まれている成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 口腔^{くう}内や喉に付着した細菌等の微生物を死滅させたり、その増殖を抑えることを目的として、ベンゼトニウム塩化物が用いられる。
- b 咽頭の粘膜に付着したアレルギーによる喉の不快感等の症状を鎮めることを目的として、グリセリンが配合されている場合がある。
- c 炎症を生じた粘膜組織の修復を促す作用を期待して、アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）が配合されている場合がある。
- d ラタニアが口腔^{くう}内に使用される場合、結果的にヨウ素の摂取につながり、甲状腺におけるホルモン産生に影響を及ぼす可能性がある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

【問 7 4】 貧血用薬（鉄製剤）とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 貧血のうち鉄製剤で改善できるのは、鉄欠乏性貧血のみである。
- b 銅は、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミン B₁₂ の構成成分であり、骨髓での造血機能を高める目的で、硫酸銅が含まれている場合がある。
- c 貧血用薬服用の前後 30 分にタンニン酸を含む飲食物を摂取すると、タンニン酸と反応して鉄の吸収が過剰になることがある。
- d ビタミン C（アスコルビン酸等）は、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

【問 7 5】 循環器用薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ルチンは、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- b ヘプロニカートは、心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされている。
- c 日本薬局方収載のコウカを煎じて服用する製品は、冷え症及び血色不良に用いられる。
- d ^{さんおうしやしんとう}三黄瀉心湯は、体の虚弱な人や胃腸が弱く下痢しやすい人に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【問 7 6】 婦人薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a サフランは、女性の滞っている月経を促す作用を期待して配合されている場合がある。
- b ^{ごしやくさん}五積散は、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人には、不向きとされる。
- c ^{さいこけいしかんきょうとう}柴胡桂枝乾姜湯は、まれに重篤な副作用として、間質性肺炎、肝機能障害を生じることが知られている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正

【問 7 7】 内服アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）の配合成分とその配合目的に関する組合せのうち、正しいものはどれか。

配合成分		配合目的	
a	ケトチフェンフマル酸塩	ー	交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげる
b	ヨウ化イソプロパミド	ー	鼻腔内の粘液分泌腺からの粘液の分泌を抑えると同時に、鼻腔内の刺激を伝達する副交感神経系の働きを抑えることによって、鼻汁分泌やくしゃみを抑える
c	パンテノール	ー	皮膚や粘膜の健康維持・回復に重要なビタミンを補給する
d	グリチルリチン酸二カリウム	ー	肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える

1（a、b） 2（a、c） 3（a、d） 4（b、c） 5（b、d）

【問 7 8】 鼻に用いる薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a テトラヒドロゾリン塩酸塩等のアドレナリン作動成分が配合された点鼻薬は、局所（鼻腔内）に適用されるため、その影響は局所（鼻腔内）に限定される。
- b クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性でない鼻炎に対して有効である。
- c リドカインは局所麻酔成分であり、鼻粘膜の過敏性や痛みや痒みを抑えることを目的として配合されている場合がある。
- d セチルピリジニウム塩化物は陽性界面活性成分であり、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌及び結核菌に対する殺菌消毒作用を示す。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	正	正	誤

【問 7 9】 尿糖・尿タンパク検査薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 尿タンパク検査の場合、早朝尿（起床直後の尿）を検体とすることは適切ではない。
- b 出始めの尿を採取して検査することが望ましい。
- c 検査薬を長い間尿に浸していると、検出成分が溶け出してしまい、正確な検査結果が得られなくなることがある。
- d 通常、尿は弱酸性であるが、食事その他の影響で中性～弱アルカリ性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

【問 8 0】 内服アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a クロルフェニラミンマレイン酸塩は、ヒスタミンの働きを抑える作用以外に抗コリン作用も示すため、排尿困難や口渇が現れることがある。
- b 皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として、生薬成分のマオウが用いられることがある。
- c プソイドエフェドリン塩酸塩は、他のアドレナリン作動成分に比べて中枢神経系に対する作用が強い。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	誤	正
3	誤	正	誤
4	正	誤	正

【問 8 1】 胃に作用する薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ゲンチアナは、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
- b オウレン、リュウタン等の生薬成分が配合された健胃薬は、散剤をオブラートで包む等、味や香りを遮蔽する方法で服用されると効果が期待できないおそれがある。
- c 制酸成分を主体とする胃腸薬を炭酸飲料で服用することは適当でない。
- d 制酸成分は、中和反応によって胃酸の働きを強めることを目的としている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 8 2】 健胃を目的とした生薬成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a オウバクは、ミカン科のキハダ又は *Phellodendron chinense* Schneider の周皮を除いた樹皮を基原とする生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
- b センブリは、リンドウ科のセンブリの開花期の全草を基原とする生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
- c ユウタンは、クマ科の *Ursus arctos* Linné 又はその他近縁動物の胆汁を乾燥したものを基原とする生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられるほか、消化補助成分として配合される場合もある。
- d チンピは、ミカン科のウンシュウミカンの成熟した果皮を基原とする生薬で、香りによる健胃作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	正	正	正	正

【問 8 3】 胃の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 人参湯は、体力中等度以下で、腹部は力がなくて、胃痛又は腹痛があつて、ときに胸やけや、げっぷ、胃もたれ、食欲不振、吐きけ、嘔吐などを伴うものの神経性胃炎、慢性胃炎、胃腸虚弱に適すとされる。
- b 安中散は、体力虚弱で、疲れやすく手足などが冷えやすいものの胃腸虚弱、下痢、嘔吐、胃痛、腹痛、急・慢性胃炎に適すとされる。
- c 平胃散は、体力中等度以上で、胃がもたれて消化が悪く、ときに吐きけ、食後に腹が鳴って下痢の傾向のあるものの食べすぎによる胃のもたれ、急・慢性胃炎、消化不良、食欲不振に適すとされる。
- d 六君子湯は、体力中等度以下で、胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの胃炎、胃腸虚弱、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐に適すとされる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 8 4】 整腸薬及び瀉下薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a トリメブチンマレイン酸塩は、消化管（胃及び腸）の平滑筋に直接作用して、消化管の運動を調整する作用があるとされる。
- b ピコスルファートナトリウムは、胃や小腸では分解されないが、大腸に生息する腸内細菌によって分解されて、大腸への刺激作用を示すようになる。
- c ヒマシ油は、腸内容物の排除を目的として用いられ、緩やかで弱い瀉下作用を示すため、3歳未満の乳幼児に使用しても問題ない。
- d マルツエキスは、主成分である麦芽糖が腸内細菌によって分解（発酵）して生じるガスによって便通を促すとされている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

【問 8 5】 胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}に含まれている抗コリン成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}に配合される抗コリン成分としては、ブチルスコポラミン臭化物、チキジウム臭化物等がある。
- b 抗コリン成分は副交感神経の伝達物質であるアセチルコリンとその受容体の反応を妨げる。
- c 抗コリン成分が配合された医薬品を使用した後は、乗物又は機械類の運転操作を避ける必要がある。
- d 高齢者では、一般的に唾液分泌亢進^{こうしん}や下痢の副作用が現れやすい。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	正	正	誤

【問 8 6】 胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}とその成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a パパベリン塩酸塩は、消化管の平滑筋に直接働いて胃腸の痙攣^{けいれん}を鎮める作用を示すとされている。
- b ロートエクスについては、乳児の脈が遅くなる（徐脈）おそれがあるため、使用期間中の授乳を避ける必要がある。
- c オキシサゼインはメトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、6歳未満の小児への使用は避ける必要がある。
- d 血尿を伴う側腹部の痛みに対し、胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}を使用することは適当でない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

【問 8 7】 浣腸薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 浣腸薬は、繰り返し使用すると直腸の感受性の低下（いわゆる慣れ）が生じて効果が弱くなり、医薬品の使用に頼りがちになるため、連用しないこととされている。
- b グリセリンが配合された浣腸薬では、排便時に血圧低下を生じて、立ちくらみの症状が現れるとの報告がある。
- c 注入剤（肛門から薬液を注入するもの）において半量等を使用する用法がある場合、残量を再利用すると感染のおそれがあるので使用後は廃棄する。
- d ビサコジルは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

【問 8 8】 痔及び痔疾用薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 裂肛は、肛門内部に存在する肛門腺窩と呼ばれる小さなくぼみに糞便の滓が溜まって炎症・化膿を生じた状態であり、一般に、「切れ痔」（又は「裂け痔」と）呼ばれる。
- b 痔は、肛門部に過度の負担をかけることやストレス等により生じるため、長時間座るのを避けたり、軽い運動によって血行を良くすることが予防につながる。
- c 肛門周囲の末梢血管の血行を促して、うっ血を改善する効果を期待して、カルバゾクロムが配合されている場合がある。
- d 粘膜表面に不溶性の膜を形成することによる、粘膜の保護・止血を目的として、タンニン酸、酸化亜鉛、硫酸アルミニウムカリウム、卵黄油等が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	正

【問 8 9】 泌尿器用薬に含まれている生薬成分及び漢方処方製剤に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ウワウルシは、ツツジ科のクマコケモモの葉を基原とする生薬であり、煎薬として残尿感、排尿に際して不快感のあるものに用いられる。
- b ソウハクヒは、クワ科のマグワの根皮を基原とする生薬であり、煎薬として尿量減少に用いられる。
- c モクツウは、アケビ科のアケビ又はミツバアケビの蔓性^{つる}の茎を、通例、横切りしたものを基原とする生薬であり、尿中に排出される分解代謝物が抗菌作用を示す。
- d 竜胆瀉肝湯^{りゅうたんしゃかんとう}は、体力に関わらず使用でき、排尿異常があり、ときに口が渇くものの排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみに適すとされ、構成生薬としてカンゾウを含む。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d)

【問 9 0】 次の表は、ある点眼薬に含まれている成分の一覧である。

100 mL 中	
ナファゾリン塩酸塩	3 mg
イブシロンーアミノカプロン酸	1,000 mg
グリチルリチン酸二カリウム	100 mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	30 mg
ピリドキシン塩酸塩（ビタミン B ₆ ）	50 mg

この点眼薬の成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ナファゾリン塩酸塩などのアドレナリン作動成分は、緑内障と診断された人では、眼圧の上昇をまねき、緑内障を悪化させるおそれがある。
- b イブシロンーアミノカプロン酸は、炎症の原因となる物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を期待して配合されている。
- c クロルフェニラミンマレイン酸塩は、細菌感染（ブドウ球菌や連鎖球菌）による結膜炎やものもらい（麦粒腫）、眼瞼炎などの化膿性の症状の改善を目的として配合されている。
- d ピリドキシン塩酸塩（ビタミン B₆）は、炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用を期待して配合されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	正	誤

【問 9 1】 点眼薬に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 一般用医薬品の点眼薬は、一般点眼薬、抗菌性点眼薬及びアレルギー用点眼薬に大別され、このうち一般点眼薬は涙液成分を補うことを目的とするものである。
- 2 ベンザルコニウム塩化物やパラオキシ安息香酸ナトリウムなどの防腐剤は、ソフトコンタクトレンズに吸着されて、角膜に障害を引き起こす原因となるおそれがある。
- 3 医師から処方された点眼薬を使用している場合には、一般用医薬品の点眼薬を使用する前に、その適否につき、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談がなされるべきである。
- 4 点眼薬は局所性の副作用として、目の充血や痒み、腫れが現れることがあるほか、全身性の副作用として、皮膚に発疹、発赤、痒み等が現れることがある。

【問 9 2】 外皮用薬に含まれている痒み、腫れ、痛み等を抑える成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ステロイド性抗炎症成分は、末梢組織（患部局所）における炎症を抑える作用を示す一方、好ましくない作用として末梢組織の免疫機能を低下させる作用も示す。
- b 非ステロイド性抗炎症成分のケトプロフェンが配合された外皮用薬は、使用期間中に限り、塗布部が紫外線に当たるのを避ける必要がある。
- c 血行促進成分のヘパリン類似物質は、血液凝固を抑える働きがあるため、出血しやすい人、出血が止まりにくい人、出血性血液疾患（血友病、血小板減少症、紫斑症など）の診断を受けた人では、使用を避ける必要がある。
- d 皮膚表面に冷感刺激を与え、軽い炎症を起こして反射的な血管の拡張による患部の血行を促す効果を期待して、ノニル酸ワニルルアミドが配合されている場合がある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 9 3】 白癬の治療に用いられる抗真菌成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ピロールニトリンは、患部を酸性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。
- b ウンデシレン酸は、菌の呼吸や代謝を妨げることにより、皮膚糸状菌の増殖を抑える。
- c ミコナゾール硝酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。
- d シクロピロクスオラミンは、皮膚糸状菌の細胞膜に作用して、その増殖・生存に必要な物質の輸送機能を妨げ、その増殖を抑える。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	誤	誤

【問 9 4】 歯槽膿漏薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a カミツレは、キク科のカミツレの頭花を基原とする生薬で、抗炎症、抗菌などの作用を期待して用いられる。
- b 炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用のほか、歯肉炎に伴う口臭を抑える効果も期待して、銅クロロフィリンナトリウムが配合されている場合がある。
- c 炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して、血液の凝固機能を正常に保つ働きがあるフィトナジオン(ビタミンK₁)が配合されている場合がある。
- d 歯周組織の血行を促す効果を期待して、チョウジ油が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	誤
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	正	正	正	正

【問 9 5】 禁煙補助剤の使用方法に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a うつ病と診断されたことのある人では、禁煙時の離脱症状により、うつ症状を悪化させることがあるため、使用を避ける必要がある。
- b 咀嚼剤は、菓子のガムのように噛むと唾液が多く分泌され、ニコチンが唾液とともに飲み込まれてしまうため、吐きけや腹痛等の副作用が現れやすくなる。
- c 口腔内がアルカリ性になるとニコチンの吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔内を酸性にする食品を摂取した後に使用することが推奨されている。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	正	誤
3	正	正	誤
4	正	誤	誤

【問 9 6】 滋養強壯保健薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 補中益気湯^{ほちゅうえつきとう}は体力虚弱で、元気がなく、胃腸の働きが衰えて、疲れやすいものの虚弱体質、疲労倦怠^{けん}、病後・術後の衰弱、食欲不振、ねあせ、感冒に適すとされている。
- b ガンマ-オリザノールは肝臓の働きを助け、肝血流を促進する働きがあり、全身倦怠感や疲労時の栄養補給を目的として配合されている場合がある。
- c ヘスペリジンはアミノ酸成分の一種で、軟骨成分を形成及び修復する働きがあるとされており、関節痛、筋肉痛等の改善を促す作用を期待してビタミンB₁等と組み合わせられて配合されている場合がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	正
4	正	誤	誤

【問 9 7】 漢方処方製剤及び生薬製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 漢方処方製剤は、漢方独自の病態認識である「証」に基づいて用いることが、有効性及び安全性を確保するために重要であり、使用する人の体質や症状その他の状態に適した処方を既成の処方の中から選択して用いられる。
- b 一般用に用いることが出来る漢方処方は、現在 300 処方程度である。
- c 生薬製剤は、症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（1 ヶ月位）継続して服用されることがある。
- d 生薬製剤は、使用する人の体質や症状その他の状態に適した配合を選択するという考え方にに基づき、生薬成分を組み合わせられて配合された医薬品である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	正	正	正	正
5	正	正	誤	誤

【問 9 8】 肥満症又は肥胖症^{はん}に用いられる漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 防風通聖散^{ぼうふうつうしょうさん}は、使用する際、他の瀉下薬^{しゃ}との併用は避けることとされている。
- b 防己黄耆湯^{ぼういおうぎとう}は、体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節の腫れや痛み、むくみ、多汗症、肥満症（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）に適すとされている。
- c 大柴胡湯^{だिस柴いこう}は、構成生薬としてカンゾウを含み、まれに重篤な副作用として偽アルドステロン症が起こることが知られている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	正	誤
4	誤	正	正

【問 9 9】 消毒薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 手指又は皮膚の殺菌・消毒を目的とする消毒薬のうち、配合成分やその濃度等があらかじめ定められた範囲内である製品については、医薬部外品として流通することが認められている。
- b クロルヘキシジジングルコン酸塩は塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。
- c イソプロパノールは結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、大部分のウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- d 塩素系殺菌消毒成分は強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示すが、皮膚刺激性が強いため、通常人体の消毒には用いられない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

【問 1 0 0】 殺虫剤の配合成分とその殺虫作用の関係の正誤について、正しい組合せはどれか。

配合成分		殺虫作用	
a	フェニトロチオン	—	アセチルコリンを分解する酵素（アセチルコリンエステラーゼ）と不可逆的に結合してその働きを阻害する
b	ペルメトリン	—	神経細胞に直接作用して神経伝達を阻害する
c	ジフルベンズロン	—	脱皮時の新しい外殻の形成を阻害して幼虫の正常な脱皮をできなくする
d	メトプレン	—	アセチルコリンを分解する酵素（アセチルコリンエステラーゼ）と可逆的に結合してその働きを阻害する

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	誤	正
5	正	正	正	誤

医薬品の適正使用と安全対策（20 問）

【問 1 0 1】 医薬品の適正使用情報に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品は、一般の生活者が薬剤師又は登録販売者に相談し、薬剤師又は登録販売者がその使用を判断するものであるため、添付文書や製品表示に記載されている適正使用情報は重要である。
- b 添付文書や製品表示に記載されている適正使用情報は、薬剤師又は登録販売者に理解しやすい専門的な表現でなされている。
- c 医薬品の販売等に従事する専門家は、添付文書や製品表示に記載されている内容を的確に理解した上で、その医薬品を購入し、又は使用する者の状況に応じて、積極的な情報提供が必要と思われる事項に焦点を絞り、効果的かつ効率的な説明を行うことが重要である。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	正	誤
3	正	正	正
4	誤	誤	正

【問 1 0 2】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品には、添付文書又はその容器若しくは被包に、「用法、用量その他使用及び取扱い上の必要な注意」の記載が義務づけられている。
- b 一般用医薬品の添付文書の内容は変わるものであり、医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、必要に応じて随時改訂がなされている。
- c 一般用医薬品を使用した人が医療機関を受診する際にも、その添付文書を持参し、医師や薬剤師に見せて相談がなされることが重要である。
- d 添付文書は、必要なときにいつでも取り出して読むことができるように保管しておくことが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

【問 1 0 3】 添付文書の使用上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 使用上の注意は、「してはいけないこと」、「説明すること」及び「その他の注意」から構成される。
- b 使用上の注意は、適正使用のために重要と考えられる項目であり、情報を正確に伝えるため、枠囲い、文字の色やポイントを変えることは認められていない。
- c 「してはいけないこと」として、無資格者による販売や不適切な陳列方法の禁止について記載されている。
- d 一般用検査薬では、その検査結果のみで確定診断はできないので、判定が陽性であれば速やかに勤務先や自治体の実施する健診を受ける旨が記載されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	誤	誤

【問 1 0 4】 添付文書の使用上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品に配合されている成分の作用によって眠気や異常なまぶしさ等が引き起こされると、重大な事故につながるおそれがあるため、その症状の内容とともに「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」のような記載がある。
- b 体に吸収されると一部が乳汁中に移行して、乳児に悪影響を及ぼすおそれがあることが知られている成分が配合された医薬品には、「授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」のような記載がある。
- c 摂取されたアルコールによって、医薬品の作用の増強、副作用を生じる危険性の増大が予測される場合には、「服用前後は飲酒しないこと」のような記載がある。
- d 症状が改善したか否かによらず、漫然と使用し続けることを避ける必要がある医薬品には、「長期連用しないこと」のような記載がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	正	正
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

【問 1 0 5】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品を使用したあとに、副作用と考えられる症状等を生じた場合、その原因を分析するため、使用を中止せずに専門家に相談するよう記載されている。
- b 一般用医薬品（人体に直接使用しない検査薬等を除く）の添加物として配合されている成分は、製薬企業界の自主申し合わせに基づいて記載されている。
- c 長期連用可能な漢方処方製剤においては、安全性が確立されているので、長期連用する場合の専門家への相談の必要性についての記載はない。
- d 医薬品を使用する前に、その適否について専門家に相談した上で適切な判断がなされるべきである場合として「医師（又は歯科医師）の治療を受けている人」の記載がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

【問 1 0 6】 医薬品の製品表示に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品のリスク区分に応じた適切な陳列方法が法定表示事項として記載されている。
- b 医薬品によっては添付文書の形でなく、医薬品医療機器等法第 52 条第 2 項の規定に基づく「用法、用量その他使用及び取扱い上の必要な注意」等の記載を、外箱等に行っている場合がある。
- c 外箱等は記載スペースが限られることから、添加物成分の記載については、アレルギーの原因となり得ることが知られているもの等、安全対策上重要なものを記載し、「（これら以外の）添加物成分は添付文書をご覧ください」としている場合がある。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正

【問 1 0 7】 一般用医薬品の添付文書への記載事項に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 「効能又は効果」は、一般の生活者が自ら判断できる症状、用途等が示されており、効能又は効果に関連する注意事項がある場合には、「効能又は効果」の項目に続けて、これと区別して記載されている。
- b 「保管及び取扱い上の注意」として「直射日光の当たらない涼しい場所に保管すること」と記載されている全ての医薬品については、冷蔵庫内で保管することが適当である。
- c 「成分及び分量」は、有効成分の名称及び分量が記載されており、それらの記載と併せて、人体に直接使用しない検査薬等を除き、添加物として配合されている成分も掲げられている。
- d 「消費者相談窓口」は、製造業者の窓口担当部門の名称、電話番号、受付時間等が記載されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	正	誤	正	誤

【問 1 0 8】 医薬品の製品表示に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 使用期限の表示は、適切な保存条件の下で製造後 2 年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品において法的な表示義務がない。
- b 包装中に封入されている医薬品（内袋を含む）だけが取り出され、添付文書が読まれないといったことのないように、添付文書の必読に関する事項が記載されている。
- c 1 回服用量中 0.1 mL を超えるアルコールを含有する内服液剤（滋養強壯を目的とするもの）については、アルコールを含有する旨及びその分量が記載されている。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	誤	誤

【問 1 0 9】 安全性速報に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a A 4 サイズの黄色地の印刷物で、イエローレターとも呼ばれる。
- b 一般的な使用上の注意の改訂情報よりも緊急性の低い情報提供を目的として作成される。
- c 厚生労働省からの命令や指示、または製造販売業者の自主決定等に基づいて作成され、(独)医薬品医療機器総合機構による医薬品医療機器情報配信サービスによる配信(PMDAメディナビ)や医療機関・薬局等への直接配布などにより、情報伝達されるものである。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤

【問 1 1 0】 製品表示情報に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 添付文書情報を事前に閲覧できない環境では、製品表示から読み取れる適正使用情報を活用し、購入者等に対して適切な情報提供を行うことが重要になる。
- b 第一類医薬品及び第二類医薬品は、その副作用等により日常生活に支障を来す程度の健康被害が生じるおそれがあるため、製品表示によってリスク区分が容易に判別できるようにすることで、副作用等の回避、早期発見のため必要な注意事項への関心が向けられる。
- c 第三類医薬品は、適正に使用されれば身体の変調や不調が生じることはないことから、「第3類医薬品」の表示を省略して「第3類」のみの表示が認められている。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	正	正	正
5	正	誤	誤

【問 1 1 1】 適正使用情報の活用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 添付文書や外箱表示の記載内容が改訂された場合、その情報は直ちに流通製品へ反映されるため、販売等に従事する専門家が追加的に情報を収集する必要性は高くない。
- b 情報通信技術の発展・普及により、一般の生活者も医薬品の有効性や安全性に関する専門的情報へ容易にアクセスできるようになっており、販売時に提供される説明内容が不十分であった場合、医薬品の販売等に従事する専門家に対する信用・信頼が損なわれるおそれがある。
- c 一般の生活者が接する医薬品情報には、不正確又は断片的なものが含まれる場合があるため、医薬品の販売等に従事する専門家には、科学的根拠に基づいた正確なアドバイスによりセルフメディケーションを支援する役割が期待されている。

	a	b	c
1	誤	誤	誤
2	正	誤	誤
3	正	正	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

【問 1 1 2】 企業からの副作用等の報告制度に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 製造販売業者等は、医薬品の市販後においても、その品質、有効性及び安全性に関する情報を継続的に収集し、医薬関係者に必要な情報を提供することが、企業責任として重要である。
- b 製造販売業者等は、その製造販売等する医薬品の副作用等によるものと疑われる健康被害の発生や、使用によるものと疑われる感染症の発生を知った場合、医薬品医療機器等法第 68 条の 10 第 1 項に基づき、定められた期限までに厚生労働大臣に報告しなければならない。
- c 一般用医薬品については、承認後の安全性に関する調査が製造販売業者等に求められておらず、医療用医薬品に限って実施されている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正
5	正	誤	誤

【問 1 1 3】 健康危機管理体制に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 1997 年に血液製剤による薬害問題を受けて健康危機管理体制が整備されたが、その対象は医薬品に起因する健康被害に限定されており、食中毒や飲料水に起因する健康被害は含まれていない。
- b 医薬品医療機器等法第 68 条の 10 第 2 項の規定に基づく医薬品の副作用等報告は、医薬品との因果関係が科学的に明確である健康被害のみが報告対象とされており、過量使用や誤用による健康被害は報告の対象外である。
- c 医薬品医療機器等法第 68 条の 10 第 2 項の規定に基づく医薬品の副作用等報告は、複数の専門家が販売に関与している場合、関与した全ての専門家が連名で報告書を提出しなければならない、報告様式の記入欄すべてを漏れなく記載する必要がある。
- d 医薬品医療機器等法第 68 条の 10 第 2 項の規定に基づく医薬品の副作用等報告は、郵送等の方法に加え、令和 3 年 4 月からは、(独) 医薬品医療機器総合機構のウェブサイトに入力することによる電子的な報告が可能となっている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【問 1 1 4】 医薬品副作用被害救済制度における次の給付の種類のうち、請求期限がないものはどれか。

- 1 医療費
- 2 医療手当
- 3 障害年金
- 4 遺族年金
- 5 葬祭料

【問 1 1 5】 医薬品 P L センターに関する次の記述について、() の中に入れるべき
字句の正しい組合せはどれか。

医薬品 P L センターは、(a) において、平成 7 年 7 月の製造物責任法 (P L 法)
の施行と同時に開設された。

消費者が、医薬品又は医薬部外品に関する苦情 (健康被害以外の損害 (b)) に
ついて (c) と交渉するに当たって、公平・中立な立場で申立ての相談を受け付
け、交渉の仲介や調整・あっせんを行い、裁判によらずに迅速な解決に導くことを目
的としている。

	a	b	c
1	(独) 医薬品医療機器総合機構	も含まれる	国
2	(独) 医薬品医療機器総合機構	も含まれる	製造販売元の企業
3	(独) 医薬品医療機器総合機構	は含まれない	製造販売元の企業
4	日本製薬団体連合会	も含まれる	製造販売元の企業
5	日本製薬団体連合会	は含まれない	国

【問 1 1 6】 一般用医薬品の主な安全対策に関する次の記述の正誤について、正しい組
合せはどれか。

- a 解熱鎮痛成分としてアミノピリン、スルピリンが配合されたアンプル入りかぜ薬
の使用による重篤な副作用 (ショック) で死亡例が発生し、1965 年、厚生省 (当時)
より関係製薬企業に対し、アンプル入りかぜ薬製品の回収が要請された。
- b 慢性肝炎患者が桂枝湯^{けいしとう}を使用して間質性肺炎を発症し、死亡を含む重篤な転帰に
至った例があったことから、1996 年 3 月に厚生省 (当時) より関係製薬企業に対し
て緊急安全性情報の配布が指示された。
- c 一般用かぜ薬の使用によると疑われる間質性肺炎の発生事例が複数報告されたこ
とから、厚生労働省は一般用かぜ薬全般につき、使用上の注意の改訂を指示した。
- d プソイドエフェドリン塩酸塩 (P S E) 含有医薬品は、2000 年 5 月米国において、
女性が食欲抑制剤として使用した場合に、出血性脳卒中の発生リスクとの関連性が
高いとの報告がなされ、米国食品医薬品庁 (F D A) から、米国内における P S E
含有医薬品の自主的な販売中止が要請された。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

【問 1 1 7】 医薬品の適正使用のための啓発活動等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 登録販売者は、適切なセルフメディケーションの普及定着、医薬品の適正使用の推進のため、啓発活動に積極的に参加、協力することが期待される。
- b 毎年 10 月 17 日～23 日の 1 週間を「薬と健康の週間」として、国、自治体、関係団体等による広報活動やイベント等が実施されている。
- c 薬物乱用や薬物依存は、違法薬物（麻薬、覚醒剤等）により生じるものであり、一般用医薬品では生じ得ない。
- d 医薬品の適正使用の重要性に関しては、内容が難しく、誤った理解をさせてしまうおそれがあることから、小中学生のうちからの啓発は行うべきではない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	誤	正	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

【問 1 1 8】 医薬品成分等と一般用医薬品の添付文書の「次の人は使用（服用）しないこと」の項に記載することとされている事項との関係について、正しいものの組合せはどれか。

医薬品成分等		既往歴・症状・状態	
a	ヒマシ油	—	患部が化膿 ^{のう} している人
b	カフェイン	—	胃酸過多
c	フェルビナク	—	喘息 ^{ぜん} を起こしたことがある人
d	アセトアミノフェン	—	前立腺肥大による排尿困難

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問 1 1 9】 次の表は、ある乗物酔い防止薬に含まれている成分の一覧である。

1錠中	
クロルフェニラミンマレイン酸塩	4 mg
スコポラミン臭化水素酸塩水和物	0.25 mg
添加物	
還元麦芽糖水アメ、トウモロコシデンプン、 ヒドロキシプロピルセルロース、無水ケイ酸、 アスパルテーム（L-フェニルアラニン化合物）、 ステアリン酸マグネシウム、香料、 オクテニルコハク酸デンプンナトリウム	

この薬の使用上の注意の記載「相談すること」にあてはまらない人はどれか。

- 1 てんかんの診断を受けた人
- 2 高齢者
- 3 排尿困難の症状がある人
- 4 緑内障の診断を受けた人

【問 1 2 0】 一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の「次の症状がある人」の項目中に記載される症状と、それに関連する主な成分に関する組合せのうち、誤っているものはどれか。

症状		主な成分	
1	けいれん	—	ヨウ化カリウム
2	むくみ	—	グリチルリチン酸二カリウム
3	急性のはげしい下痢	—	タンニン酸アルブミン
4	排尿困難	—	ジフェニドール塩酸塩